

# ティオフィラス アサモア先生 追悼

- ティオフィラス アサモア先生を偲んで …………… 大橋 哲 (九)
- ティオフィラス アサモア先生を送る言葉 …………… 石積 勝 (十)
- アサモア先生を偲ぶ アフリカについての教え … 田中 則 仁 (十一)
- ティオフィラス アサモア先生を偲んで …………… 真鍋 明 裕 (十二)



テイオフィラス アサモア先生

# 略歴および業績一覧

## ティオフィラス アサモア教授

(昭和26年11月12日生)

### 履歴

- 昭和50年9月 ケープコースト大学入学  
昭和54年9月 ケープコースト大学卒業 [B.A.]  
昭和57年4月 一橋大学商学研究科研究生 (昭和58年3月まで)  
昭和60年4月 横浜市立大学大学院 商学部経営学研究科 経営学専攻 修士課程入学  
昭和62年3月 横浜市立大学大学院 商学部経営学研究科 経営学専攻 修士課程修了  
[経営学修士]  
昭和62年4月 慶應義塾大学大学院 商学研究科 商学専攻 博士課程入学  
平成元年3月 慶應義塾大学大学院 商学研究科 商学専攻 博士課程単位取得後退学

### 職歴

- 昭和47年9月 Ministry Of Education (ガーナ) 専任講師 (昭和55年9月まで)  
昭和55年8月 Bibiani Metals Complex Ltd Marketing Officer (昭和56年10月まで)  
昭和58年4月 ソニー株式会社 本部販売企画広告課 (昭和59年3月まで)  
昭和59年4月 電通株式会社 マーケティング局 (昭和60年3月まで)  
平成2年4月 神奈川大学 研究員 (平成5年3月まで)  
平成3年4月 国際経営研究所 研究員 (平成5年3月まで)  
平成5年4月 神奈川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平成8年3月まで)  
平成5年4月 国際協力事業団青年海外協力隊 (平成7年3月まで)  
平成5年4月 神奈川大学 経済学部・第二経済学部 非常勤講師 (平成8年3月まで)  
平成8年4月 神奈川大学 経営学部 国際経営学科 助教授 (平成14年3月まで)  
平成10年4月 神奈川大学 国際交流センター委員会委員 (平成16年3月まで)  
平成13年4月 神奈川大学 国際交流センター副所長 (平成14年3月まで)  
平成14年4月 神奈川大学 経営学部 国際経営学科 教授 (平成31年1月まで)  
平成19年4月 神奈川大学 学生生活支援委員会委員 (平成23年3月まで)  
平成21年4月 神奈川大学 ファカルティ・ディベロップメント全学委員会委員 (平成23年3月まで)  
平成21年4月 神奈川大学 学生生活支援部副部長 (平成23年3月まで)  
平成23年4月 神奈川大学 国際センター所長 (平成27年3月まで)  
平成27年4月 神奈川大学 国際センター運営委員会委員 (平成29年3月まで)

## 所属学会

日本商業学会  
国際ビジネス研究学会  
日本港湾経済学会

## 学会及び社会における活動等

グローバルマーケティングにおける標準化の問題

E・コマース

昭和55年 1月 Institute Of Marketing (UK)  
昭和63年 5月 日本商業学会 (国内学会) 会員  
平成 2年 埼玉県経営者協会 (地元経営者向け洋上訓練) 指導  
平成 7年 5月 国際ビジネス研究学会 (国内学会) 会員  
平成 8年 4月 科学研究費補助金「国際学術研究」歴史的遺産の資源化についての研究 (研究分担者) (平成11年3月まで)  
平成 9年 福岡消費者センター (一般消費者向けクレーム対応) 指導  
平成 9年 5月 International Society for Marketing and Development (USA)  
平成10年 7月 American Marketing Association  
平成11年10月 日本港湾経済学会 (国内学会) 会員  
平成12年 4月 機関内共同研究 (神奈川大学共同研究奨励金) ネットビジネスによる新時代のビジネス (平成14年3月まで)  
平成13年 1月 神奈川県農業総合研究所機関 評価委員  
平成13年 4月 COTIM Chair (通信情報市場学会専門委員会) 委員長

## 教育研究業績

### 研究分野

マーケティング、国際マーケティング、グローバルマーケティング、e-ビジネス

### 研究内容のキーワード

マーケティング、国際マーケティング、e-ビジネス、グローバルマーケティング

### 教育上の能力に関する事項

---

#### (教育方法の実践例)

- 1 CaseStudyの採用 平成10年4月10日～平成12年5月1日  
(授業科目：演習Ⅱ) 学生自身の関心・疑問などを引き出し合いながら、自主的な学習を行うことをねらいとして、ゼミナールにCaseStudyを採用した。これにより、学生個々の問題意識を高めることができた。(平成10年4月10日～)
  - 2 海外合宿と海外企業訪問の実践 平成14年3月～  
毎年テーマを決定後、海外にてそのテーマに沿った企業訪問やアンケート、またインタビューを行う。帰国後、成果発表の場を設ける。
- 

#### (その他)

- 1 国際交流センター副所長  
神奈川大学の様々な国際プログラムを計画し、展開と実施をした。(平成13年度)
- 2 経営学部カリキュラム改革委員会 平成元年11月～平成12年5月1日  
平成13年度からの新カリキュラムの実施に向けてカリキュラムの編成方針を考え、教育目標との関係を明確にし、それを効果的に行うための検討をはかる。
- 3 国際委員会委員長としての取組み 平成10年10月10日～平成12年5月1日  
経営学部の国際教育を展開し、運営と実施を統合する。

## 研究業績等に関する事項

---

### (著書)

- 1 国際マーケティング 共著 平成6年3月 (中央経済社)  
田内幸一、堀出一朗編著。執筆分第6章「国際商品戦略」。
  - 2 貿易と港 共著 平成11年6月 (成山堂書店)  
三村真人、小林照夫、富田功編著。執筆分第8章「国際マーケティングにおける流通」。
  - 3 国際流通論 共著 平成14年1月 流通新論(八千代出版)  
宮沢永光、武井寿編著。執筆分第10章「国際流通」。
- 

### (学術論文)

- 1 「国際マーケティングと工業化」—発展途上国における企業によるマーケティング活動の新展開— 単著 昭和62年4月 横浜市立大学学生論集
- 2 発展途上国における企業のマーケティング戦略の展開 —ガーナ企業は日本のベンチャー企業から何を学習するのか— 単著 平成5年3月 神奈川大学国際経営研究所「国際経営フォーラム」No.4
- 3 グローバル・マーケティングの概念 —国際マーケティング研究における新たな展開— 単著 平成5年1月 神奈川大学経営学部「国際経営論集」第4号
- 4 国際経営環境とマーケティング 単著 平成8年2月 神奈川大学経営学部「国際経営論集」第10号
- 5 企業論に関する一考察 単著 平成8年3月 神奈川大学国際経営研究所「国際経営フォーラム」No.7
- 6 国際マーケティング研究における企業論的なアプローチに関する考察 単著 平成9年2月 神奈川大学経営学部「国際経営論集」第12号
- 7 シンバイオティック国際マーケティング 単著 平成9年3月 神奈川大学国際経営研究所「国際経営フォーラム」No.8
- 8 The Product Life Cycle as the Basis of the Development of Manufacturing Industries in Non-Advanced Countries 単著 平成9年7月 Proceedings of the Sixth Conference on Marketing and Development.
- 9 THE PLACE AND DIRECTION OF MARKETING IN THE STRATEGIC DEVELOPMENT OF THE MANUFACTURING INDUSTRY IN JAPAN — From Industrial-oriented to Customer-oriented Marketing and from European-oriented to American-oriented Marketing 単著 平成10年3月 神奈川大学経営学部「国際経営フォーラム」No.9

10	2002年ワールド・カップ韓日共催をめぐる諸問題とその対応（その1）—サービス・マーケティングの観点から—	共著	平成11年3月	神奈川大学経営学部 「国際経営フォーラム」 No.11
11	グローバルマーケティングにおける国際規格のインパクト	単著	平成11年3月	神奈川大学経営学部 「国際経営論集」 16/17号
12	“Urbanisum As Consumer Behavior In Metropolitan Areas — With Special Reference to Tokyo and Accra—”	単著	平成12年1月	Proceedings of the 7th International Conference on Marketing and Development
13	2002年ワールド・カップ韓日共催をめぐる諸問題とその対応（その2）—サービス・マーケティングの観点から—	共著	平成12年5月	神奈川大学経営学部 「国際経営フォーラム」 No.12
14	グローバル・マーケティング戦略研究における地域市場—特に、単一市場としてのEU（欧州連合）の設立との関連から—	単著	平成13年3月	神奈川大学経営学部 「国際経営論集」 第21号
15	国際ビジネス環境変革期における国際マーケティング研究の課題—取引費用アプローチの適用に中心—	単著	平成15年3月	神奈川大学経営学部 「国際経営論集」 第25号
16	GROBAL MOBILE ELECTRONIC COMMERCE —Development in the Mobile Phone Electronic Commerce in Japan—	単著	平成16年6月	神奈川大学国際経営研究所「国際フォーラム」 No.15
17	DEVELOPMENTS IN E-COMMERCE — An Evalution of International Marketing in International E-Commerce	単著	平成17年6月	神奈川大学国際経営研究所「国際フォーラム」 No.16

(その他)

1	グローバル・マーケティングの展開—取引費用分析による—		平成5年3月	慶應義塾大学商学研究会
2	平塚市市民講座		平成8年	
3	The Strategic Development of Japanese Manufacturing Industry		平成8年10月	THE ECONOMIC DEVELOPMENT SOCIETY Boston, USA
4	The Product Life Cycle as the Basis of the Development of Manufacturing Industries in Non-Advanced Countries		平成9年7月	International Society For Marketing and Development, USA
5	カンサス大学からの留学生の受け入れ		平成10年	

- |   |         |  |
|---|---------|--|
| 6 Urbanism As Consumer Behavior In Metropolitan Areas   | 平成12年1月 | International Society For Marketing and Development, USA |
| 7 Developments in Japanese E-Commerce   | 平成15年2月 | 米国マーケティング協会  |
| 8 New Marketing strategy Challenges in the International Business Environment                               | 平成17年3月 | 米国マーケティング協会  |
| 9 International Products and Service Developments in the Mobile Industry<br>—The Case of NTT DoCoMo, Japan— | 平成18年3月 | AMA  |